

## 第5章 農産物貿易の動向

石原清史・久保香代子

### 1. はじめに

本稿ではまず、韓国における農産物貿易の状況や貿易全体に占める農産物貿易の位置づけを把握するとともに、韓国の農政における農産物輸出政策に関する動きを概観する。次に、韓国における農産物の主要品目の貿易動向、中でも日本－韓国間の農産物貿易の動向を貿易統計を使って整理し、特徴的な動きを整理する。

さらに、近年、中国から日本、韓国への生鮮野菜の輸出が増加していることを踏まえ、貿易特化係数と貿易額の関係等を分析することにより、日中韓3カ国における生鮮野菜貿易の特徴を明らかにする。

### 2. 農産物貿易の概要

#### (1) 貿易全体に占める農産物貿易の位置づけ

韓国の貿易収支は、98年以降黒字が続いているが、農産物貿易は第1表で示すとおり、一貫して輸入超過であり大幅な赤字となっている。林産物も農産物と同様大幅な赤字で推移しており、水産物は2000年までは輸出超過で推移していたものの、2001年に赤字に転じている。

第1表 韓国の貿易収支の推移

(単位:100万ドル)

	1995	1999	2000	2001	2002	2003年
貿易収支	▲ 10,061	23,933	11,787	9,341	10,345	14,990
農林畜水産物貿易収支	▲ 7,052	▲ 5,399	▲ 6,825	▲ 7,258	▲ 8,668	▲ 9,196
農産物	▲ 4,588	▲ 3,678	▲ 3,971	▲ 4,073	▲ 4,327	▲ 4,650
畜産物	▲ 1,069	▲ 837	▲ 1,535	▲ 1,349	▲ 1,850	▲ 1,996
林産物	▲ 2,274	▲ 1,226	▲ 1,412	▲ 1,461	▲ 1,767	▲ 1,716
水産物	879	342	94	▲ 375	▲ 727	▲ 835

出典：韓国農林部『農林統計年報』

また、韓国の貿易全体に占める農林畜水産物の割合を第2表でみると、2003年の輸出総額に対し、農林畜水産物の割合は1.5%、輸入総額に占める農林畜水産物の割合は6.8%と、輸出よりも輸入における比率がかなり高くなっている。このように韓国は日本と同様、農産物輸入大国である。品目別輸入額をみると、鉱工業品に混じって、とうもろこし、魚介類、小麦、牛肉、大豆といった品目が輸入額の上位に位置している。

2003年の農林畜水産物輸出の内訳をみると、農産物52.3%、畜産物4.0%、林産物5.9%、水産物37.8%となっており、輸入は、農産物51.0%、畜産物17.4%、林産物15.5%、水産物16.1%という構成になっている(第2表)。

貿易全体でみた主要貿易相手国は、輸出では、中国、米国、日本、香港、台湾であり、輸入では、日本、中国、米国、サウジアラビア、ドイツとなっている。2004年における主要貿易相手国の占めるシェア（金額ベース）を第3表に示す。

第2表 韓国の貿易に占める農林畜水産物の割合

(単位:%)

	1995	1999	2000	2001	2002	2003
輸出総額に占める 農林畜水産物の割合	2.8	2.2	1.8	1.9	1.7	1.5
農林畜水産物輸出額のうち						
農産物	31.3	31.4	37.3	43.9	49.1	52.3
畜産物	4.5	12.7	4.7	4.1	3.5	4.0
林産物	14.5	8.4	8.4	7.4	6.0	5.9
水産物	49.6	47.5	49.5	44.6	41.4	37.8
輸入総額に占める 農林畜水産物の割合	7.8	7.2	6.1	7.2	7.5	6.8
農林畜水産物輸入額のうち						
農産物	53.9	54.4	51.8	52.7	49.7	51.0
畜産物	11.6	14.5	17.0	14.5	17.0	17.4
林産物	26.4	17.4	16.9	16.5	16.9	15.5
水産物	8.0	13.7	14.3	16.3	16.4	16.1

出典：韓国農林部『農林統計年報』

第3表 主要輸出入先国（上位5カ国）の  
占めるシェア（金額ベース2004年）

輸出先国(%)		輸入先国(%)	
中国	19.6	日本	20.6
米国	16.9	中国	13.2
日本	8.5	米国	12.8
香港	7.1	サウジアラビア	5.3
台湾	3.9	ドイツ	3.8

出典：韓国貿易協会ホームページ

第4表 主要農産物輸出入先国（上位5カ国）  
の占めるシェア（金額ベース2004年）

輸出先国(%)		輸入先国(%)	
日本	46.8	米国	22.7
米国	11.1	中国	19.7
中国	9.4	豪州	10.6
ロシア	5.9	ブラジル	5.2
香港	3.5	インド	3.9

出典：韓国貿易協会ホームページ

韓国農産物<sup>(1)</sup>の主要輸出国は、日本、米国、中国、ロシア、香港となっており、これら5か国に輸出される農産物が全体の7割以上を占めている（第4表）。一方、主要輸入国をみると、米国、中国、豪州、ブラジル、インドとなっている。これら5か国からの輸入割合は6割となっている。

次に、主要貿易相手国別に農産物貿易をみると、日本とは、貿易全体では輸入超過の赤字であるものの、農産物では大幅な輸出超過となっている。日本は、韓国農産物にとって最大の輸出市場であり、農産物の47%が日本向けに輸出され、04年には総額14億ドルの農産物が輸出されている。しかし、日本からの農産物の輸入額は全体の3.5%程度（3.5億ドル）にすぎない。

(1) ここでの農産物貿易額は、概況品コード「0：食料品及び動物」、「1：飲料及びたばこ」の合計額である。

一方、韓国最大の農産物輸入相手国は米国である。米国とは、貿易全体では黒字であるが、農産物では穀物、大豆などを中心に輸入しており、大幅な輸入超過となっている。04年の米国への農産物の輸出は3億ドル、輸入は22億ドルとなっている。

韓国にとって米国に次ぐ農産物輸入相手国は中国である。中国との貿易も米国と同様で、貿易全体では黒字であるが、農産物では生鮮野菜などの輸入により大幅な輸入超過となっており、04年の中国への輸出は2.7億ドル、輸入は19億ドルとなっている。

## (2) 韓国農政における農産物貿易政策

ウルグアイ・ラウンド妥結と時期を前後して42兆ウォンの投融資を行う農漁村構造改善対策および15兆ウォンの農漁村特別税が実施された。これらの投融資は、主に競争力強化分野に重点配分され、生産施設・流通施設が整備されたことから、稲作から果菜類等の施設型の成長作物栽培へと転換が進められることになった。97年に生じたアジア金融危機後に打ち出された45兆ウォンの投融資計画では、それまでの生産施設を中心とした内容から転換が図られ、流通改善・輸出促進等に傾斜配分されており、各地にAPC

(Agricultural Product Packing Center：農産物流通施設)が設立され、農産物の規格流通が行われるようになってきた<sup>(2)</sup>。

このような政策による、稲作から果菜類等対日輸出をねらった作物への転換と流通改善による規格流通化が促進されたことは、4. 品目別輸出入の状況においてデータを示しているが、特に生鮮野菜における対日輸出増加の一因となっていると考えられる。

## 3. 貿易特化係数でみた農産物貿易構造

ここでは、韓国農産物の主要品目について、貿易特化係数の推移をみることにより、韓国農産物における貿易構造競争力を概観することにする。貿易特化係数は、次の式により計算される。

$$\text{貿易特化係数} = (\text{輸出額} - \text{輸入額}) / (\text{輸出額} + \text{輸入額})$$

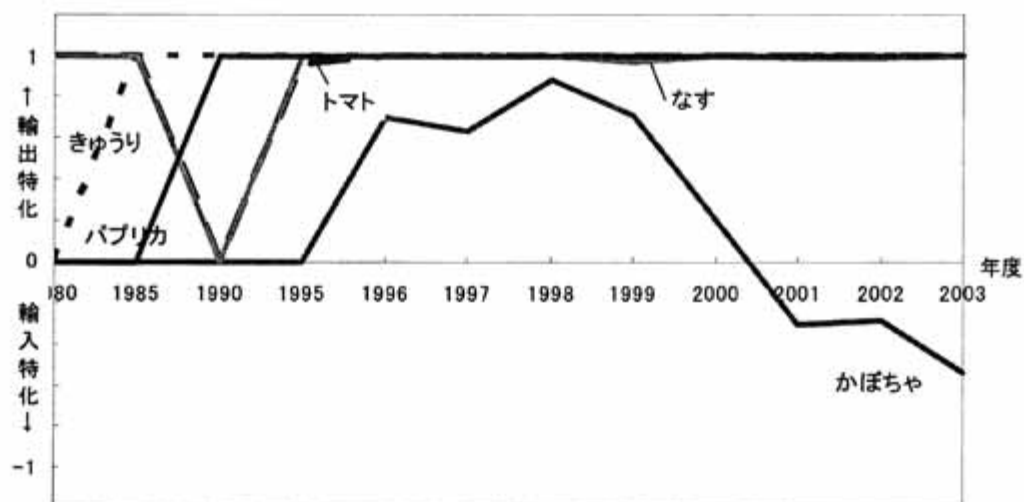
したがって、輸出額と輸入額が同額であれば0、輸出がまったく行われず輸入だけが行われている場合は-1（輸入に特化）となり、逆に輸入がまったく行われず輸出だけが行われている場合は1（輸出に特化）の数値を示す。1に近づくほど、つまり輸出に特化しているほど当該品目の競争力が強く、輸入に特化しているものほど競争力が弱いともいえる<sup>(3)</sup>。

(2) 韓国農政の変化および生鮮野菜の対日輸出に関して、柳京熙・姜暎求 [8] に詳しい。

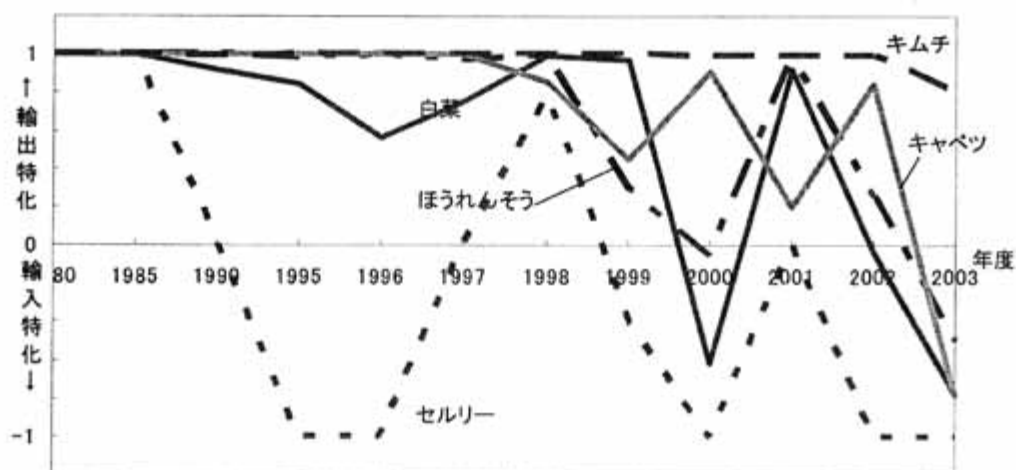
(3) ただし、貿易額の大小（貿易の規模）については、この貿易特化係数からは判断できない。貿易特化係数と貿易額の推移を組み合わせた分析は、5. 農産物の競争力比較において示した。

### (1) 野菜

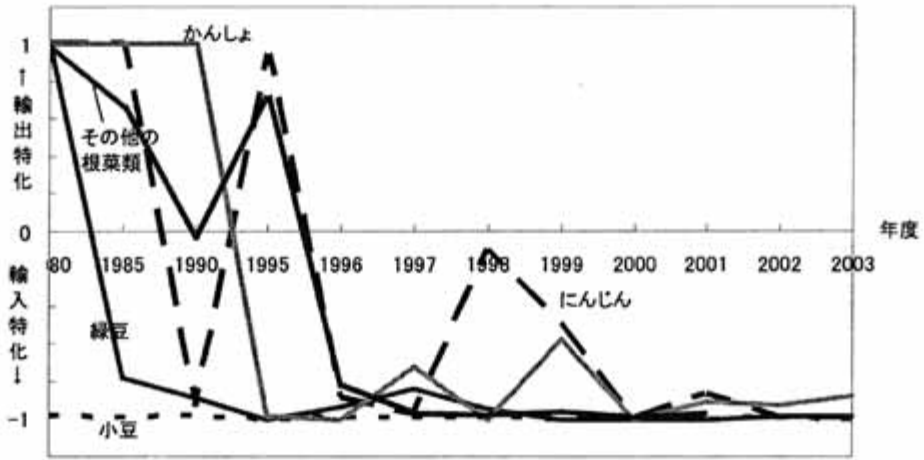
果菜類は、かぼちゃを除き輸出に特化している品目が多い（第1図）。葉菜類は輸出特化傾向にあったが、2000年以降は変動がみられる（第2図）。根菜類、豆類、調味菜類はおおむね輸入特化品目であるといえる（第3、4図）。



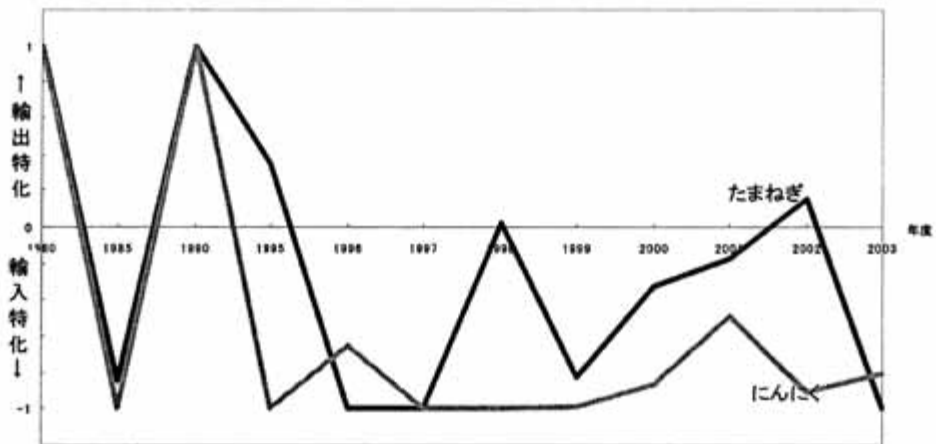
第1図 果菜類の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ



第2図 葉菜類、洋菜類等の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ



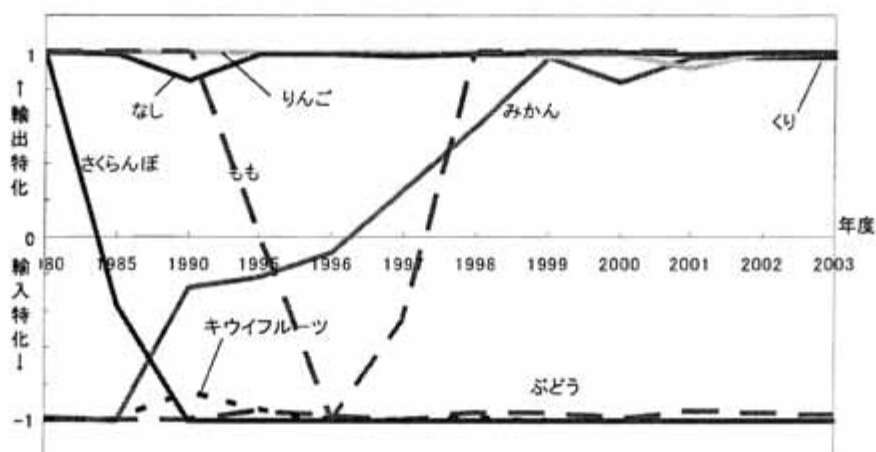
第3図 根菜類、豆類等の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ



第4図 調味菜類の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ

## (2) 果樹

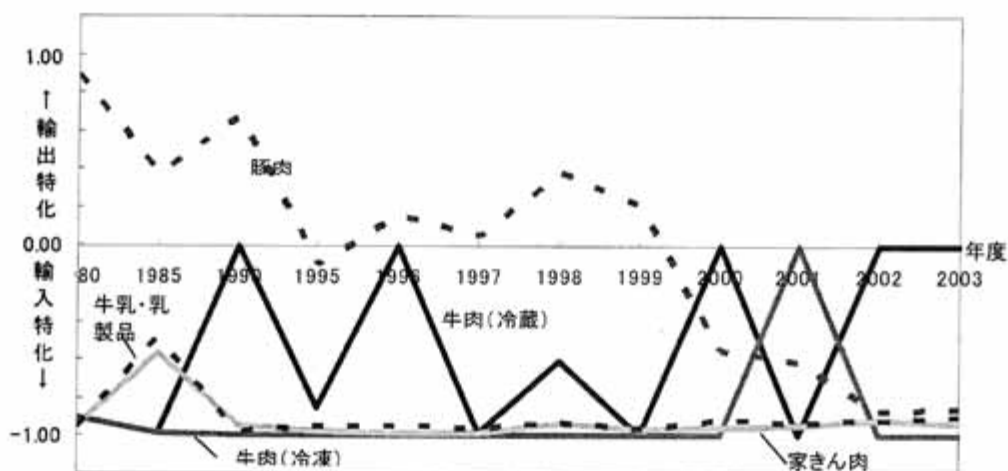
りんご、なし、くりは輸出特化品目、キウイフルーツ、ぶどうは輸入特化品目である（第5図）。みかんについては、80年代は輸入特化品目であったが、90年代後半には輸出特化品目へと転換してきている。



第5図 果実類の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ

## (3) 畜産物

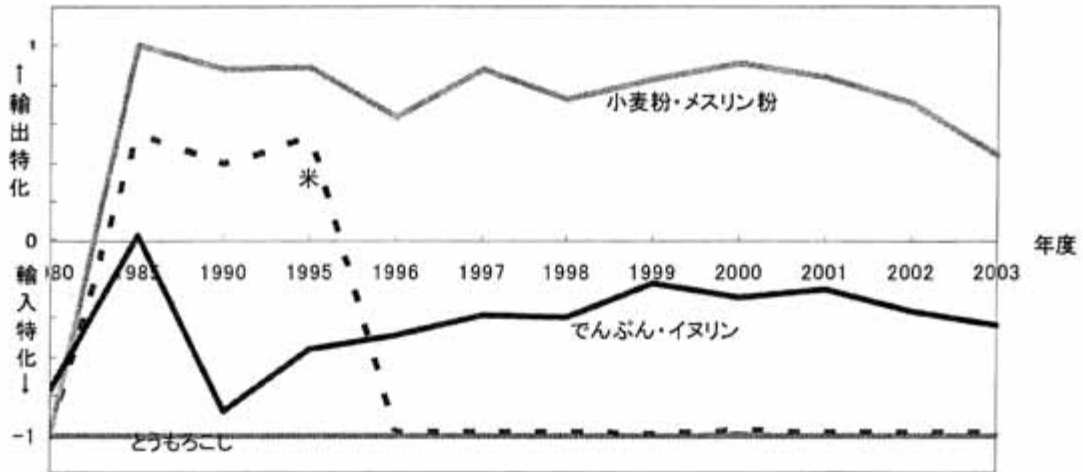
豚肉を除き、輸入特化品目といえる（第6図）。豚肉は、輸出特化傾向から輸入特化傾向に転換してきている。



第6図 畜産物の貿易特化係数  
出典：韓国貿易協会ホームページ

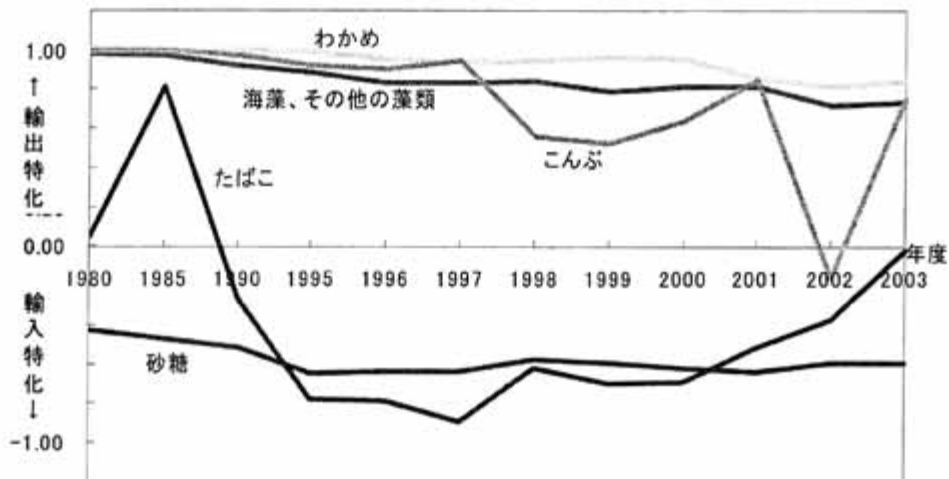
(4) その他

小麦粉、海藻類（わかめ、こんぶ）は輸出特化品目、とうもろこし、でんぷん、砂糖は輸入特化品目である（第7～8図）。



第7図 穀類の貿易特化係数

出典：韓国貿易協会ホームページ



第8図 その他の品目の貿易特化係数

出典：韓国貿易協会ホームページ

#### 4. 品目別輸出入の状況

##### (1) 野菜等

##### 1) 輸出

輸出をしている主な野菜は、トマト<sup>(4)</sup>、きゅうり・ガーキン、なす、トウガラシ属(主にジャンボピーマン(パプリカ))<sup>(5)</sup>、すいか、メロン、いちごなどとなっており、ほとんどの品目が輸出量の9割以上を日本向けに輸出している(第5表)。いずれの品目も97年以降、輸出が急増したが、一部の野菜を除き、金額・量ともに2000~01年をピークとして日本への輸出は減少してきている。しかし、韓国国内で需要があまりないパプリカの対日輸出量は増加を続けており、生鮮野菜における最大の輸出品目となっている(第9図)。

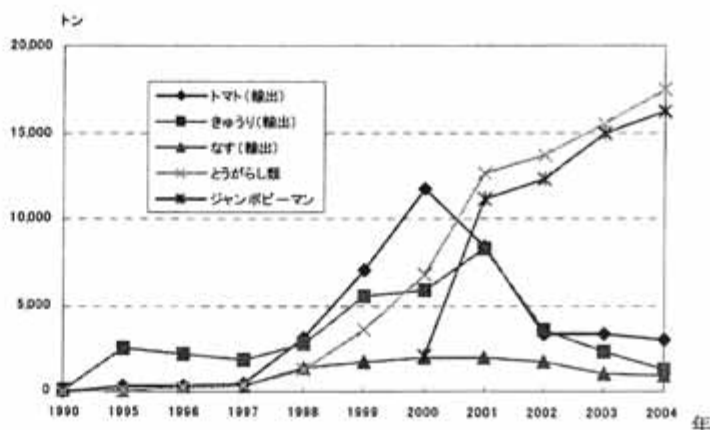
2004年時点での日本への野菜の輸出量は、パプリカが16,223トンと最も多く、果菜類ではトマト(2,941トン)、きゅうり(1,193トン)などが多く輸出されている。特に2004年は秋以降例年になく大量の葉菜類(特に白菜)が日本向けに輸出された(白菜(8,146トン)、キャベツ(5,059トン))。これは、2004年に日本に多くの台風が上陸し、農産物に被害を及ぼしたことなどの天候要因が影響しているものと考えられる。

野菜調製品であるキムチの輸出量は、年々増加を続けており、全輸出量の9割以上が日本向けとなっている。

第5表 主な野菜等の日本向け輸出  
(2004年、重量ベース)

品目	%
トマト(生鮮、冷蔵)	97.7
かぼちゃ(生鮮、冷蔵)	76.8
きゅうり、ガーキン(生鮮、冷蔵)	96.5
なす(生鮮、冷蔵)	99.7
とうがらし類	99.3
すいか	74.4
メロン	98.8
いちご(生鮮)	68.0
キムチ	93.1

出典：韓国貿易協会ホームページ



第9図 果菜類主要品目の輸出量の推移

出典：韓国貿易協会ホームページ

(4) (独) 農畜産業振興機構の「韓国における主要野菜の生産・流通等の動向」によれば、現在輸入されている生鮮トマトは関税分類上で丸トマトとミニトマトの区分がされておらず、正確な数値はわからないが、韓国から輸入されるトマトのおよそ90%がミニトマトである。

(5) 財務省の貿易統計では、2000年より一般とうがらしとジャンボピーマン(パプリカ)をわけて集計している。



## 2) 輸入

韓国が輸入をしている主な野菜は、ばれいしょ、たまねぎ、にんにく、かぼちゃ、にんじん・かぶ、緑豆、小豆などである(第6表、第7表)。主な輸入先は、ばれいしょ(オーストラリア、米国)、たまねぎ(中国、米国)、にんにく(中国)、かぼちゃ(ニュージーランド、日本)、にんじん・かぶ(中国、オーストラリア)、小豆(中国)となっており、野菜類については、根菜類、豆類、調味菜類を中心に中国が大きな輸入先となっている。

第6表 生鮮野菜の輸出入の推移(金額ベース)

			単位:1,000ドル										
HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
0701	ばれいしょ(生鮮、冷蔵)	輸出	8	33	190	63	37	26	17	9	60	30	67
		輸入	5	226	891	3,058	2,379	5,430	4,032	2,879	4,153	7,297	12,063
0702	トマト(生鮮、冷蔵)	輸出		1,168	829	1,332	6,782	16,699	22,341	14,606	7,099	7,916	8,256
		輸入		26				15	15	5			
070310	たまねぎ、シャロット(生鮮、冷蔵)	輸出	104	9,537	85	20	2,966	436	395	977	175	24	65
		輸入	0	4,630	19,996	6,593	2,835	4,387	774	1,381	130	17,733	10,388
070320	にんにく(生鮮、冷蔵)	輸出	57	15	1,279	31	31	37	8	2,783	355	429	376
		輸入		8,500	6,150	8,171	10,533	5,939	113	8,135	6,996	3,889	9,786
0704901000	キャベツ(生鮮、冷蔵)	輸出	391	1,401	151	61	5,007	978	392	2,494	516	304	3,116
		輸入		12		1	10	538	433	24	304	923	647
0704902000	白菜(生鮮、冷蔵)	輸出	222	690	90	91	3,543	3,270	396	1,358	452	193	4,901
		輸入	9	59	25	13	16	55	1,671	56	478	1,522	992
0709903000	かぼちゃ(生鮮、冷蔵)	輸出			347	527	533	1,047	630	427	698	712	452
		輸入			62	120	34	177	418	806	1,250	2,345	4,783
070610	にんじん、かぶ(生鮮、冷蔵)	輸出	3	3,800	86	21	873	384	5	332	11	37	11
		輸入	87	114	1,464	1,620	1,058	1,116	3,074	4,533	5,507	12,015	20,026
070690	その他の根菜類	輸出	498	322	141	79	605	155	91	198	58	251	873
		輸入		67	149	14	6,104	10,448	9,573	10,395	12,458	17,714	17,456
0707	きゅうり、ガーキン(生鮮、冷蔵)	輸出	263	5,371	4,960	3,127	5,473	9,265	9,884	11,419	5,022	3,653	2,155
		輸入										5	
070930	なす(生鮮、冷蔵)	輸出		189	698	614	2,307	3,457	4,307	3,542	2,797	1,995	2,046
		輸入						54	7	18	19	6	
070940	セルリー(生鮮、冷蔵)	輸出	0				8	10	0				1
		輸入	0	1	2	0	1	23	43	0	3	22	103
070960	とうがらし類	輸出	89	510	1,288	1,557	4,766	12,005	23,628	34,114	31,729	44,298	49,002
		輸入					4	7	37	20	37	29	1
080711	すいか	輸出			387	143	670	1,197	2,380	1,815	596	208	173
		輸入											
080719	メロン	輸出			181	36	166	880	931	1,008	1,129	2,175	4,598
		輸入			1		15	224	175	106	29	28	2
081010	いちご(生鮮)	輸出		485	942	372	647	2,238	5,786	6,678	3,099	1,542	1,339
		輸入			0		7	11	2	6			
070970	ほうれん草(生鮮、冷蔵)	輸出	10	188	26	73	132	34	100	71	388	5	13
		輸入					10	13	5	47	31	41	1
071331	緑豆(乾燥)	輸出	24		108	96	13				5	8	6
		輸入	406	885	3,165	1,131	455	1,057	1,183	1,008	956	837	795
071332	小豆(乾燥)	輸出	35		5	3	25	0	57		1		23
		輸入	4,700	7,937	7,904	6,895	6,223	8,220	9,949	9,783	5,522	10,265	15,942
071420	かんしょ(生鮮、乾燥)	輸出	17	6	0	48		13	0	5	5	5	26
		輸入		768	149	298	21	48	43	99	134	80	520
2005901000	キムチ	輸出	14,778	50,910	39,138	39,692	43,743	78,840	78,847	68,731	79,318	93,195	102,726
		輸入	57	0	41	45	5	40	202	199	469	10,315	29,473

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードのHSとは Harmonized Commodity Description and Coding System (商品の名称および分類についての統一システム)の略、国際貿易商品の名称および分類を世界的に統一したシステムのこと。

第7表 生鮮野菜の輸出入の推移（重量ベース）

HSコード	品目		単位:トン										
			1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
0701	ばれいしょ(生鮮、冷蔵)	輸出	3	38	379	79	38	156	43	5	32	33	30
		輸入	5	99	855	5,089	5,411	16,037	9,486	8,121	11,305	18,104	25,885
0702	トマト(生鮮、冷蔵)	輸出	0	371	306	495	3,063	7,039	11,724	8,374	3,326	3,278	3,010
		輸入		6				7	19	1			
070310	たまねぎ、シャロット(生鮮、冷蔵)	輸出	88	18,303	234	20	6,022	1,016	263	2,836	881	18	67
		輸入	0	7,526	41,409	17,928	7,261	12,100	4,926	6,334	513	79,267	34,706
070320	にんにく(生鮮、冷蔵)	輸出	15	22	3,663	57	21	58	1	11,065	1,381	516	526
		輸入		7,688	6,153	12,939	25,633	14,355	271	12,618	13,180	10,220	23,207
0704901000	キャベツ(生鮮、冷蔵)	輸出	309	1,568	281	121	6,737	1,383	944	5,567	7,294	720	5,097
		輸入		45		2	106	3,230	1,693	94	1,409	4,617	2,685
0704902000	白菜(生鮮、冷蔵)	輸出	134	562	62	29	5,456	4,304	492	3,005	1,028	407	8,717
		輸入	11	72	32	49	29	349	11,353	239	2,148	9,858	5,394
0709903000	かぼちゃ(生鮮、冷蔵)	輸出			275	563	660	1,269	695	335	770	699	333
		輸入			100	161	50	348	888	2,089	2,851	4,950	7,581
070610	にんじん、かぶ(生鮮、冷蔵)	輸出	6	6,749	122	48	1,119	955	10	726	10	76	7
		輸入		263	2,469	2,902	3,583	4,556	10,459	13,469	18,283	35,684	61,002
070690	その他の根菜類	輸出	524	309	138	42	1,170	275	231	362	115	404	1,770
		輸入	68	82	194	10	9,292	23,700	26,648	29,647	31,339	30,786	28,868
0707	きゅうり、ガーキン(生鮮、冷蔵)	輸出	145	2,547	2,209	1,862	2,815	5,519	5,805	8,259	3,529	2,255	1,236
		輸入		0								14	
070930	なす(生鮮、冷蔵)	輸出		53	289	338	1,332	1,741	2,011	1,948	1,670	1,014	941
		輸入						25	2	8	12	3	
070960	とうがらし類	輸出	33	107	266	317	1,276	3,547	6,830	12,645	13,627	15,543	17,426
		輸入					1	1	3	5	9	53	0
070960010	ジャンボピーマン	輸出							2,023	11,092	12,290	14,906	16,223
		輸入											
080711	ずいか	輸出			200	109	636	942	1,966	1,623	482	156	115
		輸入											
080719	メロン	輸出			54	11	79	276	355	500	566	726	1,425
		輸入											
081010	いちご(生鮮)	輸出		94	207	67	172	545	1,128	1,456	743	261	131
		輸入			0		2	2	0	1			
071331	緑豆(乾燥)	輸出	8		17	304	3				45	26	2
		輸入	1,057	2,153	8,076	3,327	2,134	5,521	7,175	7,008	7,294	6,696	6,962
071332	小豆(乾燥)	輸出	16		1	2	8	0	16		1		32
		輸入	13,637	21,578	17,030	18,093	18,129	20,833	24,233	25,011	21,462	25,631	27,121
2005901000	キムチ	輸出	5,850	12,476	10,700	12,069	15,939	24,561	23,433	23,785	29,213	33,064	34,827
		輸入	30	0	23	24	10	92	473	393	1,042	28,707	72,605

出典：韓国貿易協会ホームページ

注1：HSコードは第6表の注を参照。

注2：ジャンボピーマンは、財務省「貿易統計」のデータによる、韓国からの輸入量を掲載した。

## (2) 果実

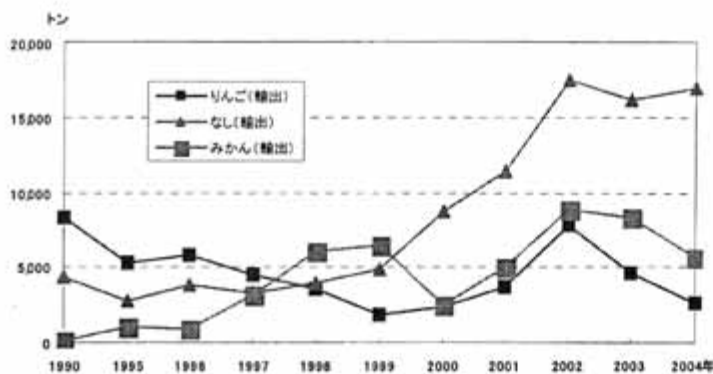
### 1) 輸出

輸出をしている主な果実は、くり、みかん、りんご、なしなどとなっている(第10図)。このうち、くりは長らく日本が最大の輸出先であった。90年代までは重量ベースで8~9割以上が日本向けに輸出されていたが、日本の占める割合は近年低下を続け、2003年からは中国が最大の輸出先国に替わった(第8、9表)。その他の品目については日本への輸出割合は低く、主な輸出先は、みかん(カナダ、ロシア)、りんご(台湾)、なし(台湾、米国)となっている。輸出量の推移をみると、くりは04年には1.6万トン、みかんは長期的には増加傾向にあり、04年には5,700トン、りんごは2002年以降減少しており04年には、2,600トン、増加が続いていたなしは、ここ数年頭打ちの状態にあり、04年には1.7万トンとなった(第10表)。

## 2) 輸入

輸入をしている主な果実は、ぶどう、さくらんぼ、キウイフルーツなどとなっており、主な輸入先はぶどう（チリ、米国）、さくらんぼ（米国）、キウイフルーツ（ニュージーランド）となっている。輸入量の推移をみると、ぶどうは増加傾向にあり、04年は1.3万トン、さくらんぼは04年は766トン、キウイフルーツは2000年以降急増しており、2.3万トンとなっている。

また、みかんは、80年代後半には8,000トンを超える量を主に日本から輸入していたが、90年代になると輸入量は激減し、輸出が超過するようになった。



第10図 果実の主要品目の輸出量の推移

出典：韓国貿易協会ホームページ

第8表 主な果実の日本向け輸出割合  
(2004年、重量ベース)

品目	%
くり	15.1
みかん	6.8
ぶどう	0.2
りんご(生鮮)	2.0
なし、マルメロ(生鮮)	1.6

出典：韓国貿易協会ホームページ

第9表 果実の輸出入の推移（金額ベース）

HSコード	品目		単位：1,000ドル											
			1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年	
080240	くり	輸出	89,524	109,309	109,002	85,737	61,344	81,705	84,065	75,173	58,361	64,188	39,126	
		輸入		183	494	213	365	262	100	383	858	944	1,452	
080520	みかん	輸出	174	1,303	1,462	2,976	5,087	6,783	4,707	5,526	5,880	4,417	6,009	
		輸入	308	2,054	1,738	1,760	1,289	106	420	78	62		157	
0806	ぶどう	輸出	6	106	81	35	118	271	100	313	241	336	296	
		輸入	7,674	4,818	9,411	23,059	5,402	14,946	16,021	12,302	13,450	21,295	21,158	
080810	りんご(生鮮)	輸出	21,287	12,983	9,731	6,231	3,130	1,501	1,819	3,003	14,247	7,684	5,168	
		輸入						12	8	135	11			
080820	なし、マルメロ(生鮮)	輸出	6,799	7,057	9,679	8,995	7,713	11,801	17,097	19,553	34,054	30,086	35,238	
		輸入	556	45	52	88	35	10	28	105	64	57	147	
080920	さくらんぼ(生鮮)	輸出												
		輸入	412	362	489	745	214	723	1,265	1,365	1,689	4,111	6,053	
080930	もも(ネクタリンを含む)	輸出	1	5	1	0		5	85	82	261	542	173	
		輸入						19	13					
081050	キウイフルーツ	輸出				12	429	217	5	22	55	0		
		輸入			12,249	14,500	5,192	7,521	8,647	9,272	16,373	22,528	44,679	

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

第10表 果実の輸出入の推移（重量ベース）

単位：トン

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
080240	くり	輸出	17,356	14,294	15,281	13,744	12,722	14,528	14,130	16,007	12,830	12,921	16,123
		輸入		98	253	112	200	178	76	231	459	847	1,579
080520	みかん	輸出	189	1,069	901	3,198	6,116	6,433	2,572	5,038	8,938	8,405	5,722
		輸入	645	1,247	1,158	1,487	1,571	102	535	58	59		139
0806	ぶどう	輸出	2	62	56	4	78	156	32	117	81	138	84
		輸入	6,260	3,892	6,018	12,013	3,712	9,084	10,748	9,505	9,760	14,665	13,098
080810	りんご(生鮮)	輸出	8,359	5,317	5,822	4,441	3,519	1,795	2,340	3,733	7,836	4,690	2,641
		輸入		0				7	7	197	18		
080820	なし、マルメロ(生鮮)	輸出	4,361	2,790	3,801	3,307	3,942	4,903	8,734	11,455	17,425	16,204	16,914
		輸入	198	15	16	46	17	2	12	87	58	27	59
080920	さくらんぼ(生鮮)	輸出						0					
		輸入	81	50	64	126	42	124	194	205	260	691	766
081050	キウイフルーツ	輸出				8	245	103	3	11	55	0	
		輸入			6,522	7,999	3,471	4,383	5,228	6,417	10,233	12,849	23,101

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

### (3) 肉類

#### 1) 牛肉

牛肉は、輸入に特化している。米国、オーストラリアからの冷凍肉を中心に輸入していたが、2003年12月の米国でのBSE発生を受けて2004年には米国からの輸入が大幅減少した(第11表)。金融危機の影響で98年に牛肉輸入が落ち込んだ後、回復傾向にあったが、2004年は米国からの輸入減を受け、総輸入量は前年の半分程度まで落ち込んだ。

第11表 肉類の輸出入の推移（金額ベース）

単位：1,000ドル

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
0201	牛の肉(生鮮、冷蔵)	輸出	-	11	-	6	142	20	-	3	-	-	-
		輸入	26	139	374	668	585	6,873	23,315	24,435	61,726	119,969	78,092
0202	牛の肉(冷凍)	輸出	13	1,102	1,076	661	850	989	100	-	0	16	4
		輸入	303,121	537,463	496,099	463,711	248,510	446,530	699,850	462,858	786,391	951,359	466,178
0203	豚の肉(生鮮、冷蔵、冷凍)	輸出	31,190	89,998	192,769	240,298	301,428	325,294	70,795	40,191	14,340	13,082	10,278
		輸入	6,279	110,804	143,043	220,406	137,605	218,550	250,424	171,611	205,913	183,937	333,611
0207	家きんの肉、くず肉(生鮮、冷蔵、冷凍)	輸出	277	538	392	471	866	997	1,908	2,644	4,733	3,514	1,397
		輸入	9,691	53,724	64,806	68,447	26,803	55,248	74,367	100,354	101,950	96,496	51,846

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

#### 2) 豚肉

豚肉は、輸出も輸入も行われているが、台湾での口蹄疫の発生(97年)により日本が台湾産豚肉を輸入禁止した影響等もあり、1995年以降、韓国からの豚肉輸出量は急増し、その9割が日本向けであった(第12表、第11図)。このため、90年代後半は輸出特化傾向がみられたが、2000年に韓国国内で口蹄疫が発生したことで日本向けの輸出が中断され、輸出が急速に減少した。主な輸出先もロシア、フィリピンなどへ変更されている(99年9万トン(3.3億ドル)→04年1.2万トン(0.1億ドル))。なお、日本向けの輸出は2004年5月に再開され、04年は総輸出量の約1割が日本向けに輸出された。

輸入は、10～12万トンで推移していたが、2004年は牛肉や家きん肉の輸入減を代替するように、前年比4割増の17.5万トンが輸入された。主な輸入先は、金額ベースでは、

FTA を締結したチリが 04 年トップとなり、次いでベルギー等の欧州、米国、カナダとなっている。

### 3) 家きん肉

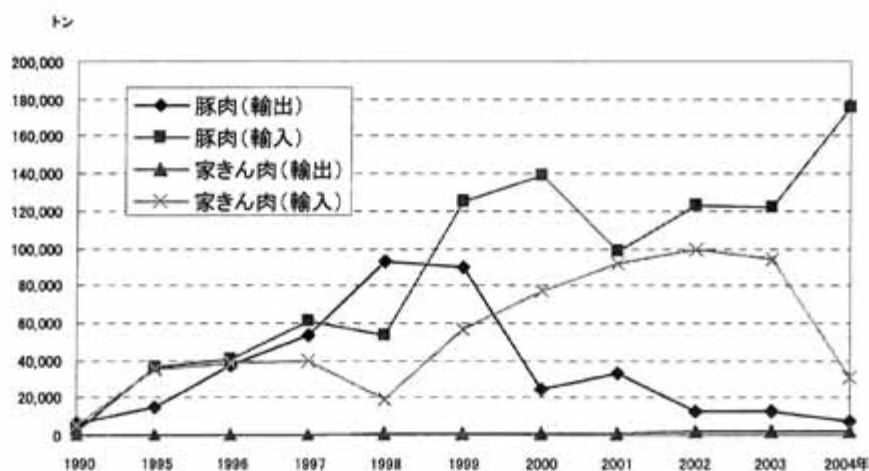
家きん肉の輸入は、近年増加傾向にあり、ここ数年は 9~10 万トン (9,000~1 億ドル) を輸入していた (第 11 図)。タイ、米国からの輸入が 9 割以上を占めていたが、2004 年はアジア等における鳥インフルエンザの発生等の影響により、タイ等からの輸入が大幅に減少し、輸入量は前年の 3 割である 3.1 万トンまで落ち込んだ。

第 12 表 肉類の輸出入の推移 (重量ベース)

		単位:トン											
HSコード	品目	1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	
0201	牛の肉(生鮮、冷蔵)	輸出 0	2		1	35	5		5				
	輸入	10	8	32	49	159	1,838	5,822	5,587	14,540	22,364	12,138	
0202	牛の肉(冷凍)	輸出 3	167	128	155	127	143	20	0	0	11	144	
	輸入	106,444	168,359	163,159	166,042	91,867	175,641	232,121	175,044	301,290	303,501	147,988	
0203	豚の肉(生鮮、冷蔵、冷凍)	輸出 5,889	14,667	37,242	53,964	92,858	90,144	24,319	33,128	12,505	12,349	7,090	
	うち日本	5,889	14,350	36,886	52,445	88,049	80,612	15,377	5	39	0	811	
	(%)	100.0	97.8	99.0	97.2	94.8	89.4	63.2	0.0	0.3	0.0	11.4	
0207	家きん肉、くず肉(生鮮、冷蔵、冷凍)	輸出 157	304	201	291	672	884	1,602	1,533	1,950	1,695	1,676	
	輸入	5,641	35,684	38,038	39,919	19,009	56,336	76,709	91,487	99,454	94,152	31,140	

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HS コードは第 6 表の注を参照。



第 11 図 豚肉・家きん肉の輸出入量の推移

出典：韓国貿易協会ホームページ

### (4) 牛乳・乳製品

牛乳・乳製品の輸入は、90 年代に入ってから急増した。98 年に一端減少したものの、再び増加している (90 年 1,400 万ドル→04 年 2.2 億ドル) (第 13 表)。04 年における内訳をみると、金額ベースではチーズ、カードの輸入が 1.2 億ドルと最大となっており、次いでホエイが 7,200 万ドルとなっている。主な輸入先は、チーズ (ニュージーランド、オーストラリア、米国)、ホエイ (オランダ、カナダ、米国) となっている。

第13表 牛乳・乳製品の輸出入の推移（金額ベース）

単位：1,000ドル

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
0401～0406	牛乳・乳製品	輸出	85	2,745	3,220	2,258	2,809	2,323	5,422	5,404	5,982	7,280	7,044
		輸入	14,481	118,391	142,456	133,948	82,578	116,187	138,222	159,185	147,417	147,754	222,174
0401	ミルク・クリーム（濃縮、乾燥、加糖以外）	輸出		172	798	11	36	2	70	64	69	7	71
		輸入		11,605	8,478	9,258	4,365	6,277	3,553	398	1,680	2,115	7,527
0402	ミルク・クリーム（濃縮、乾燥、加糖のもの）	輸出	9	636	219	179	680	64	576	64	177	67	308
		輸入	1,257	16,176	3,491	4,750	4,612	4,976	6,291	14,859	8,730	10,943	12,205
0403	バターミルク、ケフィア等発酵ミルク	輸出	6	1,378	1,498	1,678	1,795	2,018	2,536	3,005	3,753	5,001	5,004
		輸入		727	1,426	1,310	208	241	129	64	135	133	1,070
0404	ホエイ	輸出	43	214	181		60	25	95	56	204	113	149
		輸入	12,123	54,794	77,103	56,788	36,275	47,551	55,614	53,611	49,513	37,731	72,401
0405	バター	輸出		42	19	10	38	8		22	69	3	
		輸入	314	1,146	1,487	2,297	1,213	1,965	1,997	2,196	2,230	3,003	8,774
0406	チーズ、カード	輸出	27	303	505	378		208	2,145	2,193	1,710	2,089	1,117
		輸入	787	33,943	50,471	59,545	35,905	55,157	70,638	88,057	85,129	93,829	120,197

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

### (5) 花き

花きは、蘭を除いて輸出に特化している。切り花の輸出が90年代後半から急増しているが、輸出額の9割以上が日本向けの輸出となっている（95年269万ドル（うち日本向け267万ドル）→04年3,629万ドル（うち日本向け3,575万ドル））（第14表）。

バラの輸出は95年2トン（3万ドル）→04年2,195トン（1,160万ドル）、菊は95年13トン（15万ドル）→04年2,157トン（927万ドル）へと増加し、いずれも輸出額のほぼ100%が日本向けである（第15表）。

第14表 花きの輸出入の推移（金額ベース）

単位：1,000ドル

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
060220	樹木、灌木	輸出	32	61	105	149	110	436	234	298	112	44	73
		輸入	278	66	75	311	169	80	197	196	99	140	79
0602901010	蘭	輸出			249	358	660	1,673	3,250	3,860	5,395	11,809	9,645
		輸入			16,609	16,890	6,604	11,669	10,826	11,968	14,229	12,872	12,715
0602901050	菊	輸出	1	147	74	28	271	2,101	4,682	7,252	7,177	8,395	9,270
		輸入	5	0	71	38	3	36	88	41	24	66	93
0603102000	菊（切花）	輸出	1	147	63	28	271	2,088	4,682	7,044	7,114	8,354	9,270
		輸入	5		5	10	17	29	19	2	30	31	
0603	切花	輸出	161	2,685	1,417	2,168	7,929	14,265	21,594	24,482	23,000	29,444	36,291
		輸入	351	2,246	2,513	2,171	834	1,176	1,614	1,107	1,062	1,143	1,285
0603106000	バラ	輸出		27	21	44	3,414	6,492	10,324	10,209	7,107	10,401	11,596
		輸入	5	5	4		8	23	40	28	41	34	52

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

第15表 花き等の日本向け輸出割合

(2004年、金額ベース)

品目	%
蘭（鉢）	1.6
切花	98.5
菊（切花）	100.0
バラ（切花）	100.0

出典：韓国貿易協会ホームページ

## (6) 茶

緑茶は輸出入ともに行っているが、輸出の方が大きい。いずれもおおむね増加傾向で04年の輸出額は158万ドルで、主な輸出先は米国となっている(第16表)。輸入額は30万ドルで、3キロ未満の梱包では日本、それ以外では中国が主な輸入先となっている。日本からの輸入割合は、90年には100%近かったが、近年低下傾向で30%程度となっている。

紅茶、部分発酵茶についても輸出入ともに行っているが、緑茶と同様、輸出の方が大きい。04年の輸出額は375万ドルで主な輸出先は香港、米国、日本となっている。輸入額は175万ドルで主な輸入先は、3キロ未満の梱包では中国、英国、米国、それ以外ではスリランカ、中国となっている。

第16表 茶の輸出入の推移(金額ベース)

HSコード	品目		単位:1,000ドル										
			1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
090210	緑茶	輸出	223	230	141	271	203	390	143	581	1,951	1,130	1,578
		輸入	26	118	290	84	26	60	126	136	172	173	296
090230	紅茶、部分的発酵茶	輸出	755	1,055	764	2,372	581	959	843	1,659	2,641	2,917	3,746
		輸入	116	589	964	930	753	1,208	1,620	1,405	1,592	1,563	1,745

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

## (7) 穀物

韓国では米以外の主要な穀物はほとんどを輸入に依存している。中でも最大なのが、とうもろこしで04年には837万トン(14.3億ドル)を輸入している。その次が小麦で、337万トン(6.6億ドル)である(第17表)。主な輸入先は、とうもろこしが、米国、ブラジル、中国の3カ国からの輸入が9割、小麦は米国、オーストラリアからの輸入が7割を占めている。

でんぷん、イヌリンについても輸出入ともに行っており、04年には10.2万トン(4,347万ドル)輸入している一方で、3.9万トン(1,025万ドル)の輸出を行っている。主な輸入先はドイツ、中国、主な輸出先はフィリピン、マレーシア、インドネシアなどとなっている。

第17表 穀物の輸出入の推移(重量ベース)

HSコード	品目		単位:トン										
			1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
1001	小麦、メスリン	輸出											
		輸入	2,516,143	2,341,779	3,222,977	3,325,469	4,695,123	4,188,574	3,329,318	3,828,735	3,881,349	3,763,634	3,368,629
1005	とうもろこし	輸出											
		輸入	6,156,149	9,035,169	8,704,563	8,312,626	7,111,473	8,115,221	8,714,506	8,481,831	9,125,577	8,782,362	8,371,011
1101	小麦粉、メスリン粉	輸出	341	6,651	10,359	13,240	18,060	30,706	37,250	25,723	13,696	11,981	11,755
		輸入	47	256	6,387	357	1,035	988	651	967	1,854	5,401	13,243
1108	でんぷん、イヌリン	輸出	325	28,734	28,966	38,018	49,744	72,456	63,215	85,790	78,019	68,780	39,261
		輸入	10,200	46,979	44,978	52,661	49,879	47,320	55,760	81,063	92,756	94,572	102,642

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

(8) 油糧種子等

1) 油糧種子

大豆は圧倒的に輸入が多く、04年に128万トンを入力している。主な輸入先は米国、ブラジルで、この2カ国から9割近くを輸入している(第18表)。

2) 播種用の種

播種用の種は、04年に輸出が443トン、輸入が約35万トンとなっている(第18表)。主な輸出先は日本、中国、米国となっており、日本は最大の輸出先国であるが、そのシェアは年々低下傾向にある。主な輸入先はオーストラリアである。

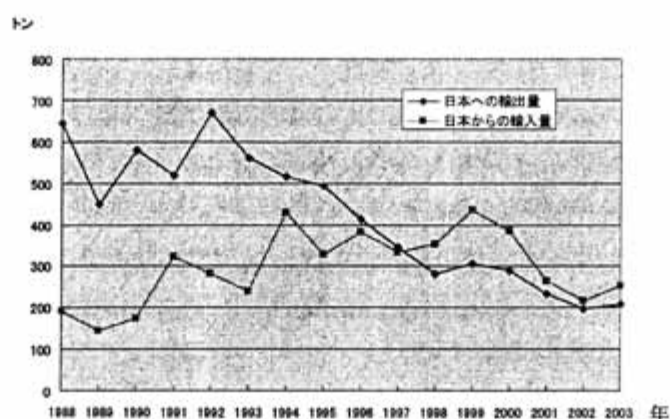
野菜の種については、日本への輸出は、播種用の種と同様低下傾向にある(第12~17図)。日本から輸入する量も野菜の種の方が高く、その割合は2割程度となっている。

第18表 油糧種子等の輸出入の推移(重量ベース)

HSコード	品目		単位:トン											
			1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年	
1201	大豆	輸出												
		輸入	1,013,979	1,467,706	1,469,619	1,568,120	1,413,011	1,441,119	1,492,228	1,355,214	1,473,899	1,508,333	1,283,491	
1209	播種用の種	輸出	619	647	602	629	522	566	625	537	526	540	443	
		輸入	2,763	118,549	182,098	235,644	191,719	313,487	364,101	220,939	182,639	112,524	347,405	

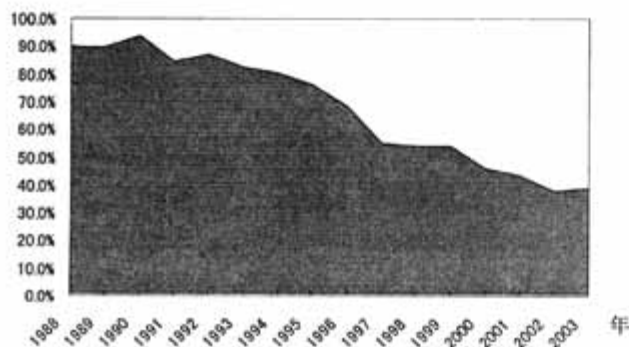
出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。



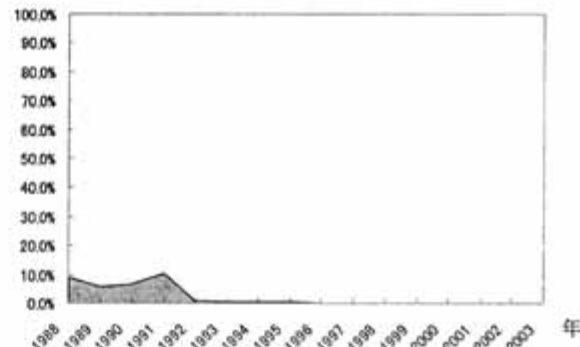
第12図 播種用の種子の輸出入の推移(重量ベース)

出典：韓国貿易協会ホームページ



第13図 播種用の種子の対日輸出割合(重量ベース)

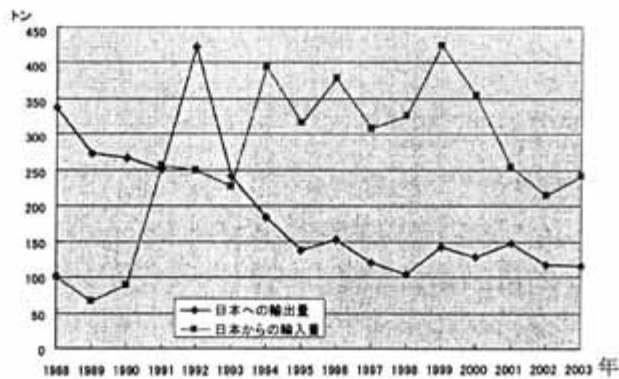
出典：韓国貿易協会ホームページ



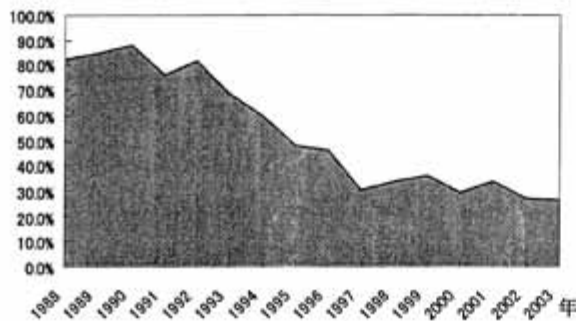
第14図 播種用の種子の対日輸入割合(重量ベース)

出典：韓国貿易協会ホームページ

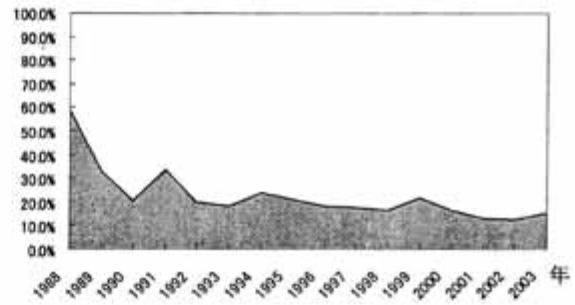




第15図 野菜の種の対日輸出入の推移 (重量ベース)  
出典：韓国貿易協会ホームページ



第16図 野菜の種の対日輸出割合 (重量ベース)  
出典：韓国貿易協会ホームページ



第17図 野菜の種の対日輸入割合 (重量ベース)  
出典：韓国貿易協会ホームページ

## (9) 海藻類

海藻類の輸出額は95年1.3億ドルをピークに減少傾向にあり、04年には9,400万ドルとなっている(第19表)。内訳をみるとわかめが3,600万ドル、ひじきが3,000万ドルでいずれも日本が最大の輸出先国となっている。

## (10) 砂糖

砂糖は、04年に輸出が9,600万ドル、輸入が4.1億ドルとなっている(第19表)。輸出はおおむね1億ドル程度で推移しているのに対し、輸入は近年4億ドルをはさんだ動きとなっている。

輸出の内訳をみると、甘しや糖、てんさい糖[HS1701]が最も多く04年に7,435万ドル、主な輸出先は中国、香港となっている。その他の糖類[HS1702]が次いで2,146万ドル、主な輸出先は日本、米国となっている。

輸入の内訳をみると、甘しや糖、てんさい糖[HS1701]は3.1億ドル、主な輸入先はオーストラリア、グアテマラとなっている。その他の糖類[HS1702]は4,845万ドル、主な輸入先は中国、米国、オランダ。糖みつ[HS1703]は5,005万ドルで、主な輸入先はタイ、オーストラリア、インドネシアとなっている。

第19表 海藻類・砂糖類等の輸出入の推移（金額ベース）

単位：1,000ドル

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
121220	海藻、その他	輸出	115,313	128,779	99,083	94,258	104,356	103,820	92,120	88,521	81,858	87,484	94,338
		輸入	4,941	8,269	9,147	8,545	8,941	12,486	9,679	9,136	13,326	13,291	4,385
1212202010	わかめ	輸出	73,051	56,319	46,477	41,916	32,555	33,775	29,742	21,134	20,339	21,900	35,881
～90		輸入	61	336	1,153	1,347	874	696	648	1,672	2,099	1,891	2,853
1212203010	ひじき	輸出	26,119	50,078	34,264	28,386	37,449	36,176	28,707	30,335	33,213	35,420	30,293
		輸入	222	1,065	264	880	268	979	363	405	428	332	211
1212205010	こんぶ	輸出	620	913	1,891	2,968	1,118	4,366	4,611	3,547	1,744	3,742	3,627
～90		輸入	8	40	98	84	315	1,361	1,032	298	2,423	520	478
1701～	砂糖	輸出	128,914	111,369	122,575	112,968	120,845	86,454	83,113	96,886	92,972	95,175	95,871
1703		輸入	402,872	522,259	547,975	505,377	449,167	335,131	357,471	432,890	366,455	374,157	409,280
2401～	たばこ	輸出	80,958	47,959	51,524	22,346	39,549	38,614	52,029	90,256	156,283	237,211	234,508
2403		輸入	141,060	376,474	424,014	397,492	166,276	216,617	282,616	282,116	343,728	249,234	207,449

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

## (11) 魚類

魚類の輸出額をみると、まぐろ・かつお類が最大となっている（第20表）。90年代は、3億ドル程度で推移してきたものが2000年以降低下し、04年は1.1億ドルとなっている。次いで、さばが多く、04年は954万ドルとなっている。

輸入では、04年はさばが4,748万ドル、さけが2,140万ドルとなっている。

第20表 魚類の輸出入の推移（金額ベース）

単位：1,000ドル

HSコード	品目		1990	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004年
030211	ます	輸出	44	0	2	0	9	0	233	457	338	626	759
030321		輸入	7	10	273	267	17	121	199	229	402	275	454
030212	さけ	輸出	159	280	25	0	13	0	76	200	12	83	306
030322		輸入	918	8,511	9,656	10,430	4,803	8,551	14,826	11,772	12,768	13,352	21,396
030231～39	まぐろ、かつお	輸出	294,975	281,855	311,554	301,950	285,028	291,515	293,591	249,659	129,209	105,958	109,798
		輸入	6,458	9,004	2,316	19,719	4,797	6,337	8,288	12,417	5,368	3,998	3,114
030240	にしん	輸出	1,258	1,491	2,044	4,033	2,329	5,857	4,502	6,315	932	1,189	1,875
030350		輸入	13,047	2,272	2,701	2,332	5,455	2,577	1,666	3,293	2,812	3,164	3,166
030264	さば	輸出	7,892	12,495	26,777	8,859	9,720	22,297	25,010	17,370	14,488	12,580	9,536
030374		輸入	1,889	2,650	3,547	5,611	4,228	15,859	20,440	45,220	38,045	29,381	47,484

出典：韓国貿易協会ホームページ

注：HSコードは第6表の注を参照。

## 5. 農産物の競争力比較

以上のように、品目別の輸出入の動向を貿易統計のデータをもとに概観してきたが、90年代後半に韓国から日本への果菜類の輸出や、中国から韓国・日本への調味菜類、根菜類等の輸出について、顕著な増加がみられたところである。このような動きを受け、ここでは、農産物貿易の中でも生鮮野菜を例にとりあげ、その貿易額および貿易特化係数の推移を分析することで、日本、中国、韓国の3カ国における貿易の特徴をみることにする。

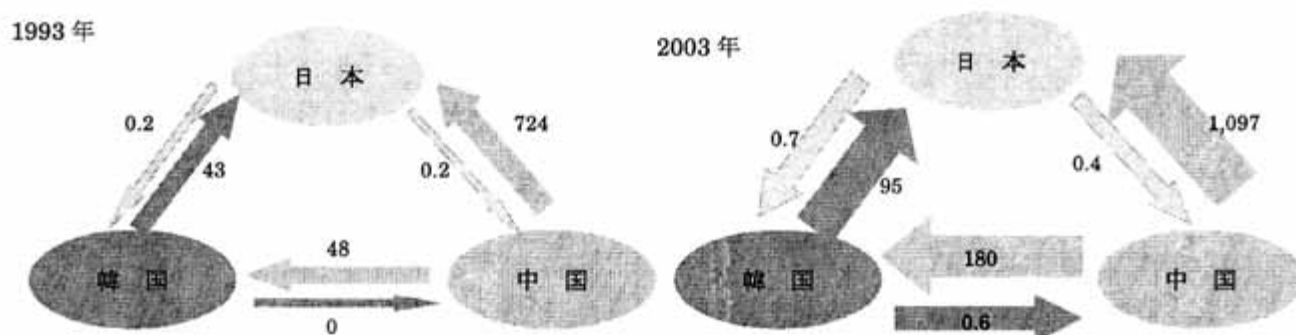
## (1) 日中韓3カ国間の生鮮野菜の貿易額の推移

日中韓3カ国間における生鮮野菜<sup>(7)</sup>の貿易について、1993年と2003年におけるそれ

(7) ここでの生鮮野菜の貿易額は、HSコードの07類の貿易額の合計額である。

それぞれの国への輸出入額を比較したのが第 18 図である。韓国から日本への輸出額は、果菜類を中心に増加した結果、03 年には 93 年の 2.2 倍の 95 億円に、中国から韓国への輸出額も根菜類、調味菜類などが急増したことから 3.7 倍の 180 億円に増加している。また、中国から日本への輸出額も 1.5 倍の 1,097 億円に増加した。

特に、韓国から日本への生鮮野菜の輸出額の伸び (2.2 倍) は、農産物の輸出額の伸び (0.9 倍) を上回っている。同様に、中国から韓国への生鮮野菜の輸出額の伸び (3.7 倍) も農産物のそれ (2.8 倍) を上回っているところである。このことは、中国から韓国、韓国から日本への生鮮野菜輸出が 90 年代後半にかけて農産物全体の伸びを上回る勢いで急速に拡大したことを物語っている (第 21 表)。



第 18 図 日中韓 3 カ国間における生鮮野菜輸出入額の推移 (単位: 億円)

出典: 韓国貿易協会ホームページ, 財務省貿易統計ホームページ

第 21 表 農産物及び生鮮野菜の輸出入額の推移

単位: 百万円

	年	農産物*1	03/93		
			生鮮野菜*2	03/93	
韓国→日本	1993	172,639	0.9	4,255	2.2
	2003	150,617		9,483	
中国→韓国	1993	95,538	2.8	4,830	3.7
	2003	268,675		18,031	
中国→日本	1993	357,808	2.0	72,396	1.5
	2003	707,534		109,706	
日本→韓国	1993	12,159	2.6	16	4.3
	2003	31,440		70	
韓国→中国	1993	1,726	12.4	0	284.3
	2003	21,484		63	
日本→中国	1993	3,287	6.7	21	1.8
	2003	22,130		38	

出典: 日本関税協会「外国貿易概況」, 韓国貿易協会ホームページ  
財務省貿易統計ホームページ

注\*1: ここでの「農産物」とは、概況品コードの「0: 食料品及び動物」, 「1: 飲料及びたばこ」の合計額。

\*2: ここでの「生鮮野菜」は、HS コード 07 類の合計額。

## (2) 韓国－日本、韓国－中国、日本－中国における生鮮野菜貿易

次に、3カ国間の生鮮野菜貿易において、生鮮野菜を果菜類<sup>(8)</sup>、根菜類<sup>(9)</sup>、葉菜類<sup>(10)</sup>、調味菜類<sup>(11)</sup>、豆類<sup>(12)</sup>に分類し、それぞれの分類ごとの貿易特化係数と貿易額の関係を93年と03年とで比較してみることにする。

韓国－日本間の生鮮野菜貿易では、いずれの分類においても韓国の生鮮野菜が輸出特化しているが、中でも果菜類の貿易額は93年から03年にかけて顕著に増加していることがわかる(第19図)。セーフガードの発動には至らなかったものの果菜類ではトマト、なす、ピーマンが監視対象品目とされたが、これらの品目は韓国からの輸入割合が高く、韓国産果菜類の対日輸出の急増が日本の生鮮野菜生産に与える影響の大きさを窺い知ることができよう(第21表)。

韓国－中国間では、果菜類を除けばいずれの分類においても中国の野菜がおおむね輸出に特化しているといえるが、この10年間で調味菜類や、それまであまり中国から輸入が行われていなかった根菜類の貿易額が急増していることがわかる(第20図)。特に、調味菜類の中でもにんにく(冷凍・加工および生鮮(皮むき))については、韓国は1999年に関税引き上げを措置内容とするセーフガードを発動している(なお、主要な輸出国は中国となっている)。

日本－中国間では、いずれの分類においても中国の野菜が輸出に特化しているが、この10年間で調味菜類、根菜類の貿易額が大幅に拡大した(第21図)。特に2001年には、主に中国からの輸入が急増したねぎについて、セーフガードの暫定措置が発動されたことは記憶に新しい。また、セーフガードの発動には至らなかったものの、監視対象品目とされたにんにくについては、そのほとんどが中国から輸入されている(第22表)。

以上みたように、直近の10年間で、韓国から日本、中国から韓国、日本への生鮮野菜の輸出が急増してきている。その内訳をみると、韓国から日本へは果菜類の輸出が、中国から韓国・日本へは調味菜類、根菜類の輸出が増加してきたことが明らかになった。参考までに輸入価格を第23表に示しておく。このように日・中・韓3カ国において、それぞ

(8) ここでは、果菜類として以下の品目を計上している。HSコード「0702：トマト」、「0707：きゅうり及びガーキン」、「070930：なす」、「070960：とうがらし属又はピメンタ属の果実」、「070990：その他のもの」、「080711：すいか」、「080719：その他のもの」、「081010：ストロベリー」。

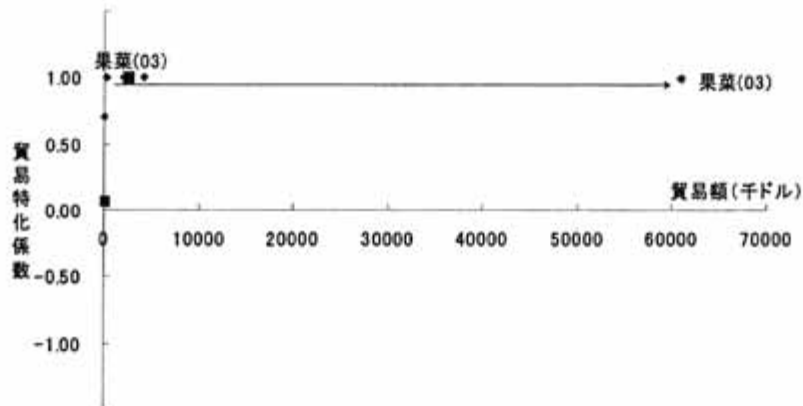
(9) ここでは、根菜類として以下の品目を計上している。HSコード「070610：にんじん及びかぶ」、「070690：その他のもの」。

(10) ここでは、葉菜類として以下の品目を計上している。HSコード「070490：キャベツその他これらに類するあぶらな属の食用野菜」、「070970：ほうれん草、つるな及びやまほうれん草」。

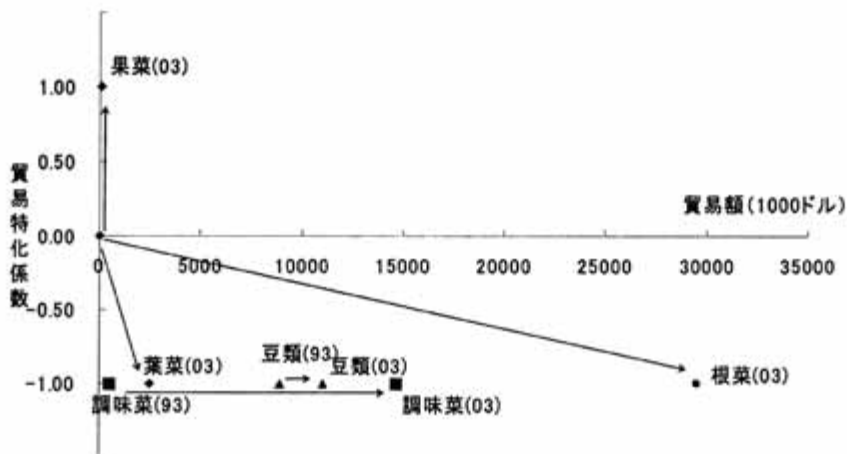
(11) ここでは、調味菜類として以下の品目を計上している。HSコード「070310：たまねぎ及びジャロット」「070320：にんにく」、「070390：リーキその他のねぎ属のもの」。

(12) ここでは、豆類として以下の品目を計上している。HSコード「071331：緑豆(乾燥)」、「071332：小豆(乾燥)」。

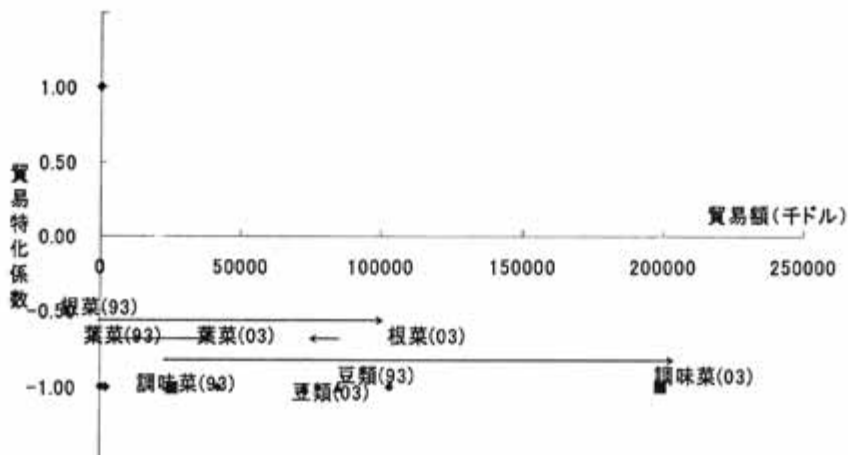
れの国が優位性を持つ分野の生鮮野菜が中国→韓国→日本といったドミノ状に輸出が行われ、この現象がこの10年間でより強まってきているということができよう。



第19図 貿易特化係数と貿易額の推移 (韓国-日本)  
 出典：日本関税協会「外国貿易概況」、韓国貿易協会ホームページ、  
 財務省貿易統計ホームページ



第20図 貿易特化係数と貿易額の推移 (韓国-中国)  
 出典：第19図と同じ。



第21図 貿易特化係数と貿易額の推移 (日本-中国)  
 出典：第19図と同じ。

第22表 監視品目とされた野菜の輸入量の伸びと韓国、中国のシェア

		1997	1998	1999	2000	2001年
ト マ ト	輸入量(トン)	976.5	4,125.6	8,699.8	13,003.1	9,451.6
	対前年伸び率(%)	94.6	322.5	110.9	49.5	▲ 27.3
	韓国のシェア	49.7	76.1	79.6	86.6	87.3
に ん に く	輸入量(トン)	25,373.4	26,717.0	26,260.5	29,225.3	28,884.7
	対前年伸び率(%)	7.6	5.3	▲ 1.7	11.3	▲ 1.2
	中国のシェア	99.1	99.7	99.5	99.8	99.9
ね ぎ	輸入量(トン)	9,011.2	17,742.5	29,537.4	42,385.4	30,332.4
	対前年伸び率(%)	▲ 2.6	96.9	66.5	43.5	▲ 28.4
	中国のシェア	92.3	95.7	97.5	98.5	99.2
な す	輸入量(トン)	339.2	1,336.5	1,658.2	1,970.2	1,935.6
	対前年伸び率(%)	19.4	294.1	24.1	18.8	▲ 1.8
	韓国のシェア	100.0	99.3	99.8	100.0	100.0
ピー マ ン	輸入量(トン)	5,823.1	8,807.2	11,184.5	16,237.4	21,602.5
	対前年伸び率(%)	46.1	51.2	27.0	45.2	33.0
	韓国のシェア	4.9	14.2	31.3	41.4	58.3

出典：日本関税協会「外国貿易概況」、財務省貿易統計ホームページ、韓国貿易協会ホームページ

注：ピーマンについては、2000年、2001年はジャンボピーマンも含めた数値。

第23表 生鮮農産物の価格

単価 (円/kg)	1990			1995			2000			2003			2004		
	中国	韓国	日本	中国	韓国	日本	中国	韓国	日本	中国	韓国	日本	中国	韓国	日本
トマト	-	-	341	-	331	342	-	207	299	-	269	307	-	-	302
きゅうり	-	271	313	-	220	268	-	186	272	-	189	266	-	-	191
キャベツ	220	62	91	64	69	92	62	71	74	54	52	83	54	-	63
にんじん及びかぶ	56	228	173	42	54	135	38	31	113	41	-	121	38	-	-
その他根菜類	109	1,478	99	102	41	95	55	66	81	96	-	87	51	-	-
にんにく	109	470	-	88	330	-	74	-	-	77	550	-	79	-	860
ねぎ	206	473	290	138	350	278	88	269	257	92	400	293	84	-	358

注：中国産、韓国産については、貿易統計の輸入価額/輸入数量により算出した。

日本産は、農林水産省統計部「青果物卸売市場調査報告」による卸売価格(東京都)

## 6. おわりに

以上みてきたように、韓国では90年代前半に集中的な施設投資政策が行われたこともあり、果菜類を中心とした対日輸出を視野に入れた生鮮野菜生産が進展し、その結果、90年代後半の対日輸出の急増につながっていった。

一方、韓国は1999年に中国からのにんにく輸入が急増し、セーフガードが発動されたほか、日本においても2001年に中国産ねぎの輸入に対し暫定セーフガードが発動されるなど、中国からの低い人件費を武器とした低価格の調味菜類、根菜類等をはじめとする生鮮野菜類の日本、韓国への輸出が拡大してきていることも明らかになった。

このような状況において、国産農産物は輸入農産物にどのように対抗していけるのだろうか。輸入されている品目と競合する産地では、低コスト生産に向けた絶え間ない努力が続けられているところである。この一方で、高品質な野菜を生産することによる輸入農産物との品質面の差別化や、生産情報等を消費者へ提供する取組み、さらには農産物直売施設などでの新鮮さを武器にした販売なども考えられるのではなかろうか。

#### 〔参考文献〕

- 〔1〕 韓国貿易協会ホームページ, <http://global.kita.net/> (2005年3月18日アクセス)
- 〔2〕 財務省貿易統計, <http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm> (2005年3月18日アクセス)
- 〔3〕 日本関税協会『外国貿易概況』。
- 〔4〕 チェ・セギョン『韓日農産物貿易の見通しと FTA 推進に向けての課題』(日本農業経済学会シンポジウム資料)。
- 〔5〕 Byungho YOO “Prospects of the Agricultural, Forestry and Fisheries Trade of Korea with China and Japan” (国際シンポジウム「WTO と東アジアにおける農業発展」論文集)。
- 〔6〕 韓国農林部『農林統計年報』(各年次)。
- 〔7〕 農畜産業振興機構『韓国における主要野菜の生産・流通等の動向』。
- 〔8〕 柳京熙・姜暎求「韓国における畜産・野菜生産の現状と課題」『行政対応特別研究 (FTA・WTO プロジェクト) 研究資料第 1 号』, 農林水産政策研究所。
- 〔9〕 農林水産省ホームページ「セーフガード関係情報」,  
[http://www.maff.go.jp/sogo\\_shokuryo/sg\\_kanren/sg\\_kanren.htm](http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/sg_kanren/sg_kanren.htm) (2005年3月18日アクセス)
- 〔10〕 野田容助編『貿易指数の作成と応用』, アジア経済研究所, 経済研究統計資料シリーズ第 87 集。